The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	旧朝鮮語学の国外への影響 : ロシア・東洋学院G. V. Podstavin教授をめぐって
Author(s)	植田, 晃次
Citation	言語文化研究. 2022, 48, p. 3-19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87083
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

旧朝鮮語学の国外への影響

―ロシア・東洋学院 G.V. Podstavin 教授をめぐって―[1)]

植　田　晃　次

구 조선어학 (舊 朝鮮語學)이 해외에 미친 영향

― 러시아・동양학원 G.V. Podstavin 교수를 중점으로 ―

우에다 고오지

논문 초록：본 논문에서는 '구 조선어학 (舊 朝鮮語學)'이라는 개념을 가지고 그것을 토대로 근대 일본의 한국어 학습서의 형식을 고찰하여 '구 조선어학'의 성과가 일본 국내뿐만 아니라 해외의 한국어 교육에까지 영향을 미쳤다는 것을 러시아・동양학원 G.V. Podstavin 교수의 경력과 저서를 검토함으로써 밝힌다.

キーワード：G. V. Podstavin，旧朝鮮語学，ロシア・東洋学院

1．はじめに

日本の近代朝鮮語教育において，対馬で行われていた朝鮮語の研究・教育がその基礎となった。朝鮮語の話しことばを収集・分類した『交隣須知』が様々な形で刊行された事実はもとより，『交隣須知』に範をとった学習書類が，その範を形骸化しつつも脈々と刊行されたことはそのひとつの現れである。

本論文では，矢野謙一が提示した「旧朝鮮語学」という概念を用い，それに基づく近代日本の朝鮮語学習書類の形式について考察したのち，旧朝鮮語学の成果が日本国内のみならず，国外にも影響を及ぼしていたことをロシア・東洋学院 G.V. Podstavin（Григорий Владимирович Подставин）教授の経歴と著書を検討することによって明らかにする。

本論文にもっとも関連深い先行研究として，まず，キム＝ドンオン・キング，ロス（以下，キム・キング）による "РАЗБОРЪ японскаго самоучителя КОРЕЙСКАГО ЯЗЫКА 朝鮮語獨學

1）本論文では，朝鮮語文献名は拙訳による日本語訳で示し「＊」を付し，デジタル化資料には「D」を付す。また，原則として旧字体の漢字は新字体で表す。なお，Podstavinと一部ロシア人名はローマン＝アルファベットで表記する。これは同氏の日本語表記が定まっていないこと，キリル文字で表記した場合には，検索などで不便さが生じ得ることなどを考慮したためである。なお，金洵（2019）でも同氏の名にはローマン＝アルファベット表記が用いられており，その註27に挙げられた金洵「フランス国立図書館蔵Podstavinの著書について」（第5回訳学書学会口頭発表論文，2013年）でも発表題目を見る限り，同様の表記が用いられている。

„ЦІÕСЕНГОДОКУГАКУ“ ВЫПУСКЪ 1-й.”[2]（以下，『朝鮮語独学の分析』）についての研究（キム・キング 2011）がある[3]。そこでは書誌と文法説明の概要を紹介し，示された例文から当時の朝鮮語の分析を行っている。高松茂（1980）でもヘルシンキ大学（フィンランド国立図書館）蔵書に基づき同書の内容について紹介している。また，Podstavin が編んだ他の教材について，キム・キング（2002）の中で，“Образцы сатирическихъ произведенiй современной корейской литературы. Выпускъ I” を紹介・分析している。さらに，それまで書名のみ知られていた “СОБРАНIЕ ОБРАЗЦОВЪ СОВРЕМЕННАГО КОРЕЙСКАГО ОФФИЦIАЛЬНАГО СТИЛЯ（現行公文類集[4]）” を取り上げ，「原物主義」（後述）に基づく調査により詳細な書誌を提示するとともに，その性格を解明した Уэда（2014）がある。

次に，ロシア・旧ソ連邦での朝鮮語学に関してコンツェーヴィッチ，高松茂，菅野などによる研究，『実地応用朝鮮語独学書』・『日韓通話』に関して李康民，齊藤，成**玧姸**，朴会映，陳南澤，ソ＝ギョンスク，ソン＝ミヨンなどによる研究がある[5]。これらの中には Podstavin について触れているものもあるが，概略の紹介や朝鮮語資料・日本語資料としての内容の分析を主としており，本論文とは目的が異なる。

東洋学院での日本学をめぐる研究は少なくないが[6]，朝鮮学を扱ったものは少ない。Podstavin と同時代人で同じく東洋学院に勤め，外交官として日本で活動し，日本語の著書『横眼で見た日本』（新潮社，1931年）を刊行した E. G. Spal’vin については関心が高いが，Podstavin についてのまとまった研究としては潘炳律の論考がある程度にとどまる[7]。また，キム・キングによる Podstavin と東洋学院の朝鮮語教育・研究についての論考が近く公表されるという記述があるものの[8]，管見の限りでは未発表と思われる。

本論文では，資料，特に研究の対象となる原資料について原物主義の立場を採る。これは「資

2）本論文では，原物を確認した資料については旧綴字法のロシア語は原則としてそのまま表記する。また，同様に大文字・小文字の区別も当該資料のままとする。

3）キム・キング（2011: 54）では本書のロシア語書名を『韓国語の日本人独学書分析』，『朝鮮語獨學 „ЦІÕСЕНГОДОКУГАКУ“』を漢字表記の朝鮮語とキリル文字表記の日本語の，もしくはともに日本語の独立した書名と解しているのではないかと見られる。しかし，「朝鮮語獨學 „ЦІÕСЕНГОДОКУГАКУ“」が本書の独立した書名である可能性は皆無ではないものの，本論文では，日本語のキリル文字表記に引用符が付されていることやロシア語話者が用いる朝鮮語学習書にあえて独立した書名を日本語でつける必要が感じられないことなどから，独立した書名ではないと考える。つまり，この部分は漢字表記を含め，РАЗБОРЪ から始まる本書の書名の一部であって，底本である日本語図書（の 1 冊）の書名を指すと見て『日本の朝鮮語独習書『朝鮮語独学』の分析　第 1 版』と解釈する。その上で，『朝鮮語独学の分析』と仮に略称する。他の先行研究では，コンツェーヴィッチ（1971: 215）の菅野による訳注は『日本人用韓国語自習書「朝鮮語独学」解説（Podstavin の講義による）』，高松茂（1980: 196）は『日本の韓国語独学書朝鮮語独学のロシア語教本』，コンツェーヴィッチ（1995: 169）は『Jashchinskij G. F.　G. V. Podstavin 教授の講義によって作成された『朝鮮語独学』という日本の韓国語独学書の分析』としている。

4）これは本文冒頭にあるので，本書の漢字表記の朝鮮語書名である。

5）コンツェーヴィッチ，L. R./ 菅野 訳註（1971），高松茂（1980），コンツェーヴィッチ（1995），菅野（1971），李康民（2003，2008，2015），齊藤（2005，2013，2015），成**玧姸**（2007），朴会映（2010），陳南澤（2016），ソ＝ギョンスク（2018），ソン＝ミヨン（2018a, b）など。なお，Potstavin については，金洵（2019）にも主に植田（2012b）に依拠した言及がある。

6）例えば，小泉（1996），高野（1954a，1954b），生田（1999a，1999b），ディボフスキー（2009）など

7）潘炳律（2004）

8）キム・キング（2011: 52）

料に関して，影印本やデジタル化されたものを最終的な判断に用いることは極力避け，可能な限り原物を実見した資料に基づいて研究を行う方法」[9]である。影印本やデジタル化資料には最終的な判断に用いる根拠としては大きな危険性があるためである[10]。

なお，本論文では，東洋文庫蔵書（IV-10-D-4）の『朝鮮語独学書の分析』の原物を用いる[11]。

2．旧朝鮮語学とその特徴

矢野謙一は明治維新以降1945年までの日本の朝鮮語学を「朝鮮語の性質を究明しようとする朝鮮語研究」,「朝鮮語の運用を目的とする朝鮮語学」に分け，後者を「旧朝鮮語学」と呼び「口頭での意思疎通のための知識と朝鮮文を書くための知識が主な分野であった。」と説明している[12]。矢野はここで日清戦争前の時期について，『交隣須知』を中心に特徴づけられるとし，『日韓善隣通語』（宝迫繁勝）・『韓語入門』（宝迫繁勝）・『交隣須知』（外務省蔵版）・『訂正隣語大方』（外務省蔵版）・『林慶業伝』（外務省蔵版）などが，「一部を除きそれ以降も教材として用いられた」と指摘している。そして，その流れを汲むものとして，『和韓会話独学』（武田甚太郎）・『交隣須知』（宝迫繁勝）・『日韓通話』（国分国夫）を挙げている[13]。

「旧朝鮮語学」の成果である『交隣須知』に連なるこれらの学習書は，異同がありはするが基本的に以下のような形式を持つ。

（1）独自の分類に基づく語彙が提示される。

（2）朝鮮語の短文と漢字付きの日本語訳が併記される。

（3）カリキュラム編成は基本的には，発音法 → 諺文 → 会話と進む。

（4）朝鮮語に仮名で発音が振られている場合がある。

9）植田（2012a: 204）

10）とりわけ写真版ではない影印本（例えば,「歴代韓国文法大系」塔出版社（初版）・博而精（第2版）＊,「近世および近代日本の韓国語学習資料叢書」亦楽＊）を原資料として最終的な判断に用いることは危険が伴う。著作権処理についてはもとより，他の資料の混入，資料の出所不明示や隠蔽，資料の改竄がこれまで行われてきた（植田 2010: 26，2016: 99）。このような指摘がなされてきたにもかかわらず，デジタル化資料の歪んだ画像をそのまま影印するのみならず，比較的容易に見られる資料さえ原物を確認することなく解題で誤った事柄を記すといった現象が起こっている。例えば,「近世および近代日本の韓国語学習資料叢書」の40巻（2020年，ISBN: 9791162446188）＊では，巻末の『日韓会話精義』の広告は画像が歪んだものがそのまま影印されている。さらには，その歪んだ画像に基づき解題ではこの書名を『韓会話精義』と誤って記している（20頁）。なお，この歪みは当該書『文法註釈韓語研究法』の韓国・国立中央図書館蔵書のデジタル化資料の画像の歪みに一致する。ただし，同館のデジタル化資料と対照すると，影印本では奥付の朝鮮総督府図書館の蔵書印は見られず，本文1頁右上の蔵書印は消し残しと思われるものがわずかに影印されている。原物主義に対して，書誌学的な研究ではなく，内容を検討するには支障はないといった批判があるが（植田 2021: 3），このような状況を鑑みるに，植田（2021: 3）と同様の理由で本論文では原物主義を採る。

11）この他，フィンランド国立図書館（ヘルシンキ大学図書館スラブ図書館）蔵書の原物（H2 109 VIII，102 006 9901），フランス国立図書館（以下，BnF）蔵書（8-IMP OR-2554）の写真（同館より2016年8月18日受領）も参照した。本論文の執筆にあたって，本書やPodstavinによる他のBnF蔵書を調査しようとしたが，コロナウイルス蔓延により執筆時までには実現していない。キム・キング（2011: 53）ではヘルシンキ大学スラブ図書館とハーバード大学に同一のものが所蔵されていると述べ，後者を使用している。ハーバード大学蔵書は同大学図書館のHOLLISで写真が公開されている（HOLLIS number: 990023810840203941，2021年9月14日最終接続）。

12）矢野（2012: 297）。旧朝鮮語学は，言語学の一分野である現代の朝鮮語学とは異なるため「旧」をつけて区別する。

13）矢野（2012: 298）

この形式は上掲の学習書のみならず，『実地応用朝鮮語独学書』（弓場重栄・内藤健，哲学書院，1896年初版），『実用韓語学』（島井浩，誠之堂書店，1902年初版）などその後の学習書にも踏襲される[14)]。のみならず，形骸化しつつも，現代にも多く見られるような実用会話書の類である『日鮮会話三十日速成』（金島苔水・李鎮芳，服部文貴堂，初版発行年不明・1942年17版）などにまでその痕跡が認められる。

3．『朝鮮語独学の分析』の著者 G. V. Podstavin と G. Iashchinski[15)]

本章では，『朝鮮語独学の分析』の著者 G.V. Podstavin と G. Iashchinski について述べる。

キム・キング（2011: 53）は両者の役割について，「共著として記録されているが」，Iashchinski の名が先に示されている点から彼の主導で実際の編纂作業が成されたと判断している。ここでいう「記録」とは表紙に「СОСТАВЛЕНЪ студентомъ кор.-кит. отдпленія Восточнаго Института Г. ЯЩИНСКИМЪ по лекціямъ исп. должн. профессора Г. В. ПОДСТАВИНА」と明記されていることを指すと見られる。つまり，Iashchinski が編んだものだが，Podstavin の講義に基づいたものであるというのがより正確であろう[16)]。このような編纂経緯を考慮し，本論文では Podstavin が関与したものとみなしてその著書に含め，同氏も著者とする。

ここではまず，潘炳律の研究に基づき G.V. Podstavin の経歴を概観する[17)]。彼は1875年サンクトペテルブルクに近いルイビンスクに生まれ，1894年にペテルブルグ大学東洋学部に入学し，A. M. Pozdneev の下でモンゴル語を学んだ。修士課程を終えた1899年から約1年朝鮮に派遣され[18)]，朝鮮語や朝鮮学者に必要な基本的な素養をソウルで学んだ。1900年，東洋学院の朝鮮語文学科に赴任して，20余年同地で多くの教科書類などの編纂を始めとし，朝鮮語の研究・教育に従事した。また，東洋学院第4代学長（1918–1920），極東国立大学初代総長（1920–1922）[19)]を務めた。1922年，ロシア革命の影響でウラジオストクを離れ，朝鮮を経てハルビンに向かい[20)]，その地で1924年3月に没する。朝鮮語学者・教育者としてのみならず，教育行政家・社会活動

14）例えば『日韓通話』の「緒言」では，「欧米ニ於テ行ハルゝ会話編ノ順序ニ倣ヒ」と述べているが，全体としては旧朝鮮語学の形式をとっている。

15）『朝鮮語独学の分析』の表紙では父称が示されていないが，菅野（1971: 305）では「Ящинский, Г. Ф.」とあり，Ф. というイニシャルが見られる。

16）コンツェーヴィッチ（1971: 215）の菅野による訳注では，書名に「（Podstavinの講義による）」と付記があり，コンツェーヴィッチ（1995: 169）でも先述のように「Jashchinskij G.F.　G. V. Podstavin 教授の講義によって作成された『朝鮮語独学』という日本の韓国語独学書の分析」，高松茂（1980: 196）でも「Podstavin の指導の下に編集」とされている。

17）潘炳律（2004）。その他によった部分は注記する。

18）コジェミャコ（2006: 2）では，2年間とされている。

19）モロジャコフ（2011: 65）。栗林（1920: 215）では「五代目」としている。

20）染谷（1982: 8）には，「残酷な革命を逃れて船でウラジオから朝鮮の清津へポッターヴィン一家が移ったのが1922年。（中略）清津のつぎには京城の帝政ロシア大使館内に一家は住んでいた。」とある。ハルビンでは，Director of the Horvat Gymnasium やハルビン学院の教職員などを務めていたようである（Khisamutdinov 不記載，哈爾浜学院史編集局 1976：巻頭写真）。

家としても活動したという[21]。明治の末年に Podstavin 一家は日本に住んでいたことがあるという[22]。また，東洋学院で日本語を教え，後にロシア国籍を取得してロシアに留まった前田清次が一時帰国時に「露探」として殺害された 1907（明治40）年 8 月に，その直後から在京のロシア人はあいつぎ帰国したが，21日には駐日ロシア公使バフメーチェフが東洋学院教授ポトスタヴィン，同スパリヴィン，前東洋学院校長ポズネーエフの身柄の安全を求める書状を紙上に公開したというので[23]，この頃に滞日していたと見られる。また，1908年に日本と朝鮮に出張したという[24]。漢名として，甫書堂を使用している[25]。

娘の一人はハルビン学院でロシア語を教え，1955年に日本に渡り翌年から上智大学ロシア語学科に勤める G. G. Podstavina である[26]。

G. Iashchinski は東洋学院日本語科第 2 期生 6 名中の 1 人であるという[27]。一方，朝鮮語科の学生であるとするものもあり[28]，転学科した可能性がある。なお，先述のように，『朝鮮語独学書の分析』の表紙には，「朝鮮語・中国語学科の学生」とある。日露戦争開戦の約 1 ヶ月後，軍からの要請によって朝鮮語通訳として召還される。このときの事情は次の通りである[29]。

1904 年 3 月 8 日，太平洋巡洋艦隊司令官・海軍少将イセーエンから，東洋学院に日本語と朝鮮語の通訳要請の手紙が届いた。そこでは信用のおけない私的な通訳ではなく，専門的研究機関として信頼性のある同学院の卒業生・在学生からこの 2 言語に通ずる者の推薦が依頼された。これに応え，アナトーリー・ザンコフスキー（日本語科 2 年生）とゲオルギー・ヤシンスキー（朝鮮語科 2 年生）が送られた。彼らは低学年ながら，会話を会得し実践力を兼備した最も成績優秀な学生であるとして抜擢された。2 人はウラジオストクの海軍に派遣され，1904 年 4 月から 8 月の始めまで，日本海と太平洋への 5 回の出撃に参加し，通訳として，傍受した日本軍の無線や占領した日本艦隊から鹵獲した日本軍の戦略文書の翻訳を行い，イセーエンの司令部に貢献した。その功により，彼らに 4 等戦功勲章が授けられた。

21）たとえば，浦潮派遣軍参謀長・柴山重一から陸軍次官・児島惣次郎への公文書「沿黒龍地方議会評議会組織ノ件」（1922年9月23日付）によれば，地方議会評議会議員に任命されている。JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. C07061516000（2021年 9 月 14日最終接続）。また，潘炳律（2004）はロシア韓国学の創始者，教育行政家と社会活動家，国立極東大学初代総長，韓人社会の頼もしい後援者という章題のもと，Podstavin の様々な側面を示している。

22）染谷（1982: 8）。また，Григорцевич C. C.（1957: 140）では，朝鮮語の教授法と教授プログラムの研究のために，Podstavin が東京外国語学校に滞在したと述べている。

23）桧山（1993: 91–92）

24）小泉（1996: 28）。コンツェーヴィッチ（1995: 134）によれば，1902・1906・1914 年にも朝鮮を訪れたという。

25）“ХРЕСТМАТIЯ ЛИТЕРАТУРНАГО КОРЕЙСКАГО ЯЗЫКА: Выпускъ I”，1905年，1頁。東洋文庫蔵書（IV/10–A/1）の原物，BnF 蔵書（8–IMP OR–2549（XI, A））の写真（同館より 2016 年 7 月 8 日受領）により確認した。

26）上智大学外国語学部ロシア語学科（2004: 6），芳地（1999: 50–51, 2010: 82–83・212），染谷（1982: 8–9）。このほか，首相官邸・外務省・ニコライ堂・慶応外国語学校・自衛隊でもロシア語を教えていたという（記念誌編集委員会 1983: 177，小泉 1996: 31，日本ロシア文学会 2000: 319）。Podstavin 親子の写真は哈爾浜学院史編集局（1976: 19・31），芳地（2010: 214）などに収められている。

27）高野（1954a: 54）

28）佐川（2007: 141）

29）次段落の内容は佐川（2007: 141）に基づく。生田（1999b: 55, 61）にも，『国立極東大学　歴史と現代』第 1 部（V.I. クリロフ他，1997年）を典拠とした重複する記述と「太平洋艦隊司令官のザンコフスキとヤシンスキイへの表彰状」の写真が示されている。

Iashchinskiは，日露戦争終戦後，『朝鮮語独学の分析』を編んでいることになる。この他，同氏によるものとして『韓－露辞典・露－韓辞典編集資料』（1903年）[30]があるという。

4．『朝鮮語独学の分析』の構成・形式・内容

当時，ペテルブルク大学での朝鮮語研究は学術的側面に重きを置いていたが，東洋学院では実用的な言語運用能力を重視しており，教材[31]も盛んに刊行されていた。その中の1冊である『朝鮮語独学の分析』（1908年）は，先述の通り，Podstavinの講義に基づき，Iashchinskiが編纂したものであった。

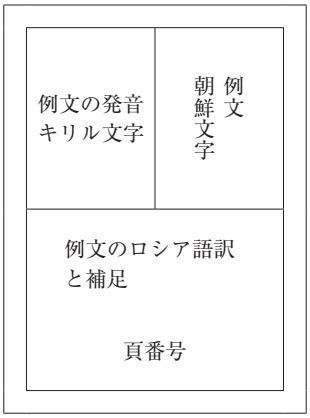

図1 『朝鮮語独学の分析』
会話の頁の形式

『朝鮮語独学の分析』については，キム・キングがその内容を分析しているものの，底本は不詳とされている[32]。本章と次章では，同書の概略を述べた後，その底本を明らかにする。

キム・キングは，彼らがロシア語書名と見做した『朝鮮語の日本人独学書分析』や対話文の内容から，日本語の本を底本にした可能性が大きいとしている[33]。また，「왜（倭），왜놈」（日本・日本人の蔑称）という例が挙げられていることから，「日本語の底本を中心に一部修正・編纂された可能性が高い」と結論付けている[34]。

キム・キングはさらに，1908年以前にPodstavinが所有していた日本語による朝鮮語学習書類について，大部分が失われているとしつつ，ウラジオストク古文書館の目録に確認された11部の学習書類を挙げ，これらには底本が見出せなかったとしている[35]。

『朝鮮語独学の分析』の構成と形式は次の通りである。構成は，ロシア語による「簡略朝鮮語文法と基本的なシンタクスの規則」（Краткая корейская грамматика и элементарныя синтаксическія правила.）（32頁）と「会話」（Разговоры）（128頁）の160頁から成る。全体の80%を占める会話の形式は，頁の上半分右に朝鮮文字による例文が縦書で，上半分左にそれをキリル文字で表記したものが横書で，下半分に例文のロシア語訳と補足が横書で，下部中央に頁番号が示されている（図1）。この形式に対してキム・キングは「20世紀初のロシアで使用された韓国語学習書のうちで特異な様相を示す。」[36]と指摘している。しかし，例文と訳の併記の他，ここ

30）高松茂（1980: 197）。また，菅野（1971: 305）にも『韓露辞典・露韓辞典編集資料』（1903）として挙げられている。

31）国会図書館司書局参考書誌課（1967），菅野（1971），高松茂（1980），Концевич（1970）などに挙げられている。

32）キム・キング（2011: 55）

33）キム・キング（2011: 54）

34）キム・キング（2011: 55）。この蔑称は底本の会話からの例文ではなく，後述する「簡略朝鮮語文法と基本的なシンタクスの規則」にある（23頁）。

35）キム・キング（2011: 52–55, 79）

36）キム・キング（2011: 53）

ではキリル文字で示されてはいるが，発音を仮名表記で示すことのある旧朝鮮語学の学習書の形式の典型を踏襲している。

3つの部分の各例文には通し番号が付されている。なお，最終頁で，キリル文字表記した例文とロシア語訳は例文885[37]が最後まで示されているが，朝鮮文字による例文は最後の이다が漏れている。

次に，『朝鮮語独学の分析』と底本と思われる旧朝鮮語学の学習書の内容を見るため小見出しを対照する。

先述のように，キム・キングは本書の底本を見出せなかったとしている。表紙に示された『日本の朝鮮語独習書『朝鮮語独学』の分析』という書名と，当時日本で刊行された朝鮮語学習書類の書名をあわせ見れば，『実地応用朝鮮語独学書』（弓場重栄・内藤健，哲学書院，1896（明治29）年4月13日初版発行）が底本であろうことは容易に推測できる。そこで，本書の会話の部分と『実地応用朝鮮語独学書』の小見出しを対照したところ内容が酷似していることがわかった。また，『日韓通話』（国分国夫，国分建見，1893（明治26）年10月8日初版発行）を補えば，『朝鮮語独学の分析書』の小見出しがすべて再構成できることが判明した（表1）[38]。

表1 『朝鮮語独学の分析』と『実地応用朝鮮語独学書』・『日韓通話』の小見出し

『朝鮮語独学の分析』	『実地応用朝鮮語独学書』	『日韓通話』
1. 旅行用談話	第4編 会話 第5章 旅行用談話	
2. 旅宿用談話	第4編 会話 第6章 旅宿用談話	
3. 初対面用談話	第4編 会話 第1章 初対面用談話	
4. 久面会用談話[39]	第4編 会話 第2章 久々ニテ面会用談話	
5. 来客応接用談話	第4編 会話 第3章 来客応接用談話	
6. 食事用談話	第4編 会話 第4章 食事用談話	
7. 商業取引用談話	第4編 会話 第7章 商業取引用談話	
8. 官位	第3編 単語 第34 官位	第12章 官位
9. 政治及軍隊		増補第22章 政治及軍隊[40]
10.（なし）[41]		
11. 国土及都邑	第3編 単語 第32 国土及都邑	第10章[42] 国土及都邑
12. 船車		増補第24章 船車
13. 刑罰		増補第25章 刑罰[43]
14. 身体	第3編 単語 第30 身体	第8章 身体

37）キム・キング（2011: 57）の指摘の通り，841が欠番のため，実際には884番目の例文になる。

38）『実地応用朝鮮語独学書』は1902（明治35）年5月5日発行の第6版（発行所：哲学書院），『日韓通話』は1904（明治37）年5月30日発行の第4版と1908（明治41）年10月1日発行の増訂6版（発行者はともに国分建見）のそれぞれ原物を用いた。

39）キム・キング（2011: 56）では，「面会用談話」となっているが，「久面会用談話」が正しい。

40）目次では「政治」となっている。

41）目次・本文ではГлава 9–я から 11–я に飛ぶが，会話の例文番号は続いている。

42）目次では正しく章番号が記されているが，本文では第11章「文芸及技芸」にも「第十章」と誤記されている。

43）目次では「第廿四章 船車」までしか書かれていない。また，再版（1893年10月8日発行）で22頁加えられた増補が

このことから，『朝鮮語独学の分析』の底本が少なくともこの 2 冊ではないかと推測される。なお，両書の著者は旧朝鮮語学の系譜に連なる人物である（6 章で後述）。

5．『朝鮮語独学の分析』と旧朝鮮語学の学習書の例文の対照

4. で見たように，小見出しの対照からは『朝鮮語独学の分析』の底本が『実地応用朝鮮語独学書』と『日韓通話』であると推定される。しかし，慎重を期せば，この小見出しから見た内容の酷似は，偶然の一致である可能性も排除できない。ことに『日韓通話』に見られる分類は他の旧朝鮮語学の学習書類にも見出し得る。

ここではさらに，『朝鮮語独学の分析』の「久面会用談話」と小見出しがつけられた 4. の冒頭（50 頁）と，『実地応用朝鮮語独学書』の「久々ニテ面会用談話」と小見出しがつけられた第 4 編第 2 章の冒頭（57–58 頁）の例文を対照してみよう（表 2）。

表 2 『朝鮮語独学の分析書』と『実地応用朝鮮語独学書』の例文の対照

『朝鮮語独学の分析』50 頁	『実地応用朝鮮語独学書』57–58 頁
427. 오ᄅᆡ간만에 뵈옵ᄂᆡ다.	오ᄅᆡ간만에 뵈옵ᄂᆡ다
428. 춤 그럿소.	춤 그럿소
429. 그 동안 평안ᄒᆞ시요.	그동안 평안허시요
430. 무사이 지ᄂᆞᆺ소.	무사이 지ᄂᆞᆺ소
431. 어ᄃᆡ를 가셧습더닛가.	이[ママ]ᄃᆡ를 가셧습더닛가
432. 원산 갓다 왓소.	원산 갓다왓소
433. 어느날 도라오셧소.	어느날 도라오셧소
434. 수일전에 도라왓소.	수일전에도라왓소

また，『朝鮮語独学の分析』の「旅宿用談話」と小見出しがつけられた 2. の途中（35–36 頁）と，『日韓通話』の「旅行」と小見出しがつけられた第 15 章の冒頭（120–121 頁）の例文を対照してみよう（表 3）。

表 3 『朝鮮語独学の分析』と『日韓通話』の例文の対照

『朝鮮語独学の分析』35–36 頁	『日韓通話』120–121 頁
335. 타국에 나와 관계치나 아느시요.	타국에나와관계치나아느시요
336. 공의 본국이 예셔 니슈로 ᄒᆞ면 얼마나 되오.	공의본국이예셔니슈로허면얼마나되오
337. 타향에 와 ᄌᆞ비량으로 잇스니 부비가 과ᄒᆞ여 간혹간구ᄒᆞᆯ（艱或艱苟）적이 잇소.	타향에와ᄌᆞ비량으로잇스니부비가 과허여간혹간구헐적이잇소

増訂 6 版では 60 頁に増やされ，官制・商業・旅行の章が加えられている。

338. 타향에서 맛나 뵈오니 인연이 즁ᄒᆞ오.	타향에서맛나뵈오니인연이즁허오
339. 이 번 ᄇᆡ로 고향을 아조 가신다 ᄒᆞ니 심심ᄒᆞ기 측냥 업ᄉᆞ외다.	이번ᄇᆡ로고향을아조가신다허니심〃［波形の反復記号］허기측냥업ᄉᆞ외다
340. ᄃᆡᆨ 소식을 자조 드러계시오닛가.	ᄃᆡᆨ소식을자조드러계시오닛가
341. 거 번 션편에 편지를 바다보왓소.	거번션편에가셔를바다보앗소
342. 인쳔 가는 션편이 언제 ᄯᆞᆷ잇답더닛가.	인쳔가는션편이언제ᄯᆞᆷ잇답더닛가

『朝鮮語独学の分析書』の全例文と『実地応用朝鮮語独学書』・『日韓通話』の例文とを対照してみた結果，885の例文[44]のうち，774（87%）に対応する例文が発見できた。全体のうち560（63%）が『実地応用朝鮮語独学書』からの例文である。これらは綴字法や分かち書きに若干異なりがあるとはいえ，表現自体がほぼそのまま対応するのみならず，配列順もほぼ底本に準じている。対応関係を示したものが表4であり，例文番号130–270（太枠部）が底本不明である。なお，例文130と335の前には不自然に「・・・・・」という点線が書かれており，その箇所が底本の変わり目であることを示唆している。ただし，切れ目のすべてに点線があるわけではなく，この2箇所のみである。

表4　『朝鮮語独学の分析』と『実地応用朝鮮語独学書』・『日韓通話』の例文の対応

『朝鮮語独学の分析』の章名	例文番号	底本	底本頁	備考
旅行用談話	1–129	実地	84–105	
	130–270	不明	不明	130の前に「・・・・・・」
旅宿用談話	271–334	実地	105–116	
	335–378	日韓	120–128	335の前に「・・・・・・」
初対面用談話	379–426	実地	49–57	
久面会用談話	427–472	実地	57–64	
来客応接用談話	473–531	実地	65–74	
食事用談話	532–584	実地	75–83	
商業取引用談話	585–745	実地	116–144	
官位	746–781	日韓	95–100	
政治及軍隊	782–795	日韓	増2–6	
国土及都邑	796–827	日韓	72–79	
船車	828–849	日韓	増12–16	841は欠番
刑罰	850–868	日韓	増17–22	
身体	867–885	日韓	増43–46	日韓の「身体」途中でおわり

さらに，例文382は『実地応用朝鮮語独学書』49頁と同一の「셩은 궁쟝이요 / 姓ハ弓場デス」

44）先述の通り，841は欠番であり，実際の例文数は884である。

というように공장という著者の姓を含む例文が出てくることから『実地応用朝鮮語独学書』が底本のひとつであることは確実である。

また，独自の分類に基づく語彙は提示されていないが，短文で朝鮮語を習得させようとしている点，本文に対訳が併記されている点，発音がキリル文字で付記されている点など，2．で見た旧朝鮮語学の学習書の特徴と形式の面でも酷似している。

以上のように，両書を検討した結果，『朝鮮語独学の分析』の底本の大部分を明らかにすることができた。しかしながら，例文130–270は他の部分のようにまとまった対応は見出せない。これらは「旅行用談話」の章に含まれるものの，何らかの学習事項（言い回しや学習項目）を示そうとしたような例文が連続している箇所もある（表5）。

表5　学習事項を示そうとしたような例文が連続する箇所の一例

学習事項	例文番号	例文		例文番号	例文
数詞・助数詞[45]	182	혼 사롬 왓소.	～	203	여돏 살 먹엇소.
連体形	211	넓은 밧.	～	212	밧치 넓다.
連用形＋야	221	미리 닐너 주엇서야 내가 가겟소.	～	225	짐이 다 왓슬넌지 가보아야 알겟소.

その他の底本となり得た主たる学習書[46]を検討したものの，底本は不明のままである。これは今後の課題である。また，目次ではII.の表題が「Разговоры（главы 1–2 и 11–14）」となっており，главы 3–10が示されていない。さらに，前章表1で示したように，目次の詳細ではГлава 9–яから11–яに飛んでいる。これらの意味も明らかでなく，検討を要する。

6．底本の性格

『実地応用朝鮮語独学書』は，東京出身の弓場重栄と新潟出身の内藤健の共編書である[47]。弓場は1873（明治6）年生まれ，14歳で銀行見習となり釜山に渡ったのを振り出しに，第一銀行・朝鮮銀行・京城銀行に勤め，銀行員・会社員・会社役員として出世街道を歩んだ。銀行辞職後

45）日数などに関する語（196の잇흘＝ふつかなど）も含む。ただし，184は우리 건너 갈 물이 깁다.で数詞・助数詞は含まれない。

46）キム・キング（2011: 54–55, 79）は，11冊の日本書を挙げ，1908年に彼らが所蔵していた11冊の日本語の韓国語学習書すべてを確認してみたが，『朝鮮語独学』と内容が同じ本は発見できなかったと述べている。この11冊とは，『独学韓語大成』（伊藤伊吉）・『日韓通話』（国分国夫）・『対訳日韓新会話』（金島苔水・広野韓山）・『日韓会話三十日速成』（金島苔水・李鎮豊）・『対訳日韓会話捷径』（金島苔水・広野韓山）・『実用韓語学』（島井浩）・『日韓言語合璧』（金島苔水）・『袖珍実用満韓土語案内』（平山治久）・『独習日語正則』（鄭雲復）・『日韓会話』（参謀本部）・『最新日韓会話案内』（嵩山堂編輯局）である（明らかな誤りや脱字などは補訂，書名・編著者名のみ列挙）。なお，『独修日語正則』は日本語学習書である。本論文の筆者は，さらに『韓語入門　巻之上・下』（宝迫繁勝）・『日韓善隣通語　巻之上・下』（宝迫繁勝）・『日韓英三国対話』（赤峰瀬一郎）・『新撰朝鮮会話』（洪奭鉉）・『朝鮮語学独案内』（松岡馨）・『韓語会話』（村上三男）・『韓語』（安泳中）・『朝鮮語独稽古』（川辺紫石）・『日韓会話』（坂井釟五郎）の原物，『校訂交隣須知』（前間恭作・藤波義貫共訂）Dを確認したが，該当するものは見出せないようである。

47）本章での弓場・内藤についての記述は植田（2021）による。その他によった部分は注記する。

は実業家として日本と朝鮮で日本土地建物・朝鮮鉄道のほか，大阪造船鉄工所・東京蔵内商事などにも勤め，1934（昭和 9）年に没した[48]。内藤は朝鮮で新興林業合資会社に勤務していた可能性があるものの人物史の詳細は不明である。両者は，釜山居留民役場が釜山港共立小学校[49]の校舎を借りて設けた夜学の「韓語速成科」でともに朝鮮語を学んだ。そこで教えを受けた国分哲の，朝鮮語学習者に独学の便を与える急務を感じるという考えに賛同し，多忙な国分に代わって『実地応用朝鮮語独学書』を共編した。その後，同書を使い回し・リメイクした『ポケット朝鮮語独学』（1915 年，日韓書房）・『簡易捷径日語独学　全』（1897 年，弓場重栄）が弓場単独の学習書として刊行されている。彼らは朝鮮を舞台にその人生の多くを送り，朝鮮語の運用にも長けていたと思われる。しかし，『実地応用朝鮮語独学書』の緒言で自ら明言しているように，朝鮮語の専門家ではなかった。弓場の写真は岡（1915: 536）に収められている。

『実地応用朝鮮語独学書』は初版が 1896（明治 29）年 4 月 13 日に発行され，28 版まで刊行されたという指摘があるが[50]，原物主義によって本論文の筆者が調査した限りでも，少なくとも 28 版（日文研蔵書）までの刊行が確認されたほか，2 種類の 6 版の存在も確認できた。

『日韓通話』は国分国夫により編まれたものである。彼の兄は，対馬出身で韓語学所・草梁倭館の語学所・東京外国語学校などで朝鮮語を学び，統監府・総督府・李王職で通訳として活動した国分象太郎[51]である。同書は象太郎が校正にあたった他，5 章で述べた再版から付される巻末の増補は象太郎が編纂したものである。象太郎は「舌一枚を以て勅任官の一等旭日大綬章の栄を贏ち得たほど朝鮮語に巧であり、朝鮮事情に精通し」ていたとされる人物である[52]。象太郎は 1862（文久 2）年 8 月 5 日生れ[53]，1921（大正 10）年 9 月 6 日に没し，対馬・天沢寺に墓所がある[54]。国夫については，『日韓通話』（初版・東洋文庫蔵書，東外大蔵書）の奥付の編輯人名に故と付されていることから，初版刊行時には既に亡くなっていたと見られるが[55]，生没年を始め，その生涯について詳細は詳らかでない。初版には国夫の肖像が収められている。また，象太郎の写真は権藤（1926; 1927[4]: 259）などに収められている。

『日韓通話』は初版が 1893（明治 26）年 10 月 8 日に発行され，原物主義によって本論文の筆者が調査した限りでは，1908（明治 41）年 9 月 20 日発行の増訂 6 版まで刊行が確認されている。

48）渋沢青淵記念財団竜門社（1967: 630）

49）修齋学校が 1888（明治 21）年に改められた。

50）桜井（1979: 505）

51）石川（2005: 35–37）

52）権藤（1926; 1927[4]: 259）

53）朝鮮公論社 編纂（1917: 406–407）。高麗大学校グローバル日本研究院在朝日本人情報辞典編纂委員会（2018: 62）では，新暦で 8 月 29 日生まれとしている。

54）石川（2005: 34）。高麗大学校グローバル日本研究院在朝日本人情報辞典編纂委員会（2018: 62）では，9 月 7 日没としているが，『毎日申報』1921 年 9 月 8 日付 (3)「国分次官遂逝去」D では 6 日午前 11 時と報じられている。

55）本論文の筆者が確認した初版の原物と異なり，国立国会図書館蔵書 D では故のほか，印刷日の三十，発行日の八，発行者の名の建見，定価金六拾銭が墨書とみられる文字で追記されている。また，版権表示も横書の印刷ではなく縦書の押印と見られるもので示されている。国立国会図書館蔵書は何らかの異本の可能性が高い。

2 冊の底本の執筆者の人物史を見れば，「旧朝鮮語学の担い手は朝鮮総督府の通訳官や一部の官吏や対馬の朝鮮語学の流れを受け継いだ市井の人々」[56]であり，朝鮮語の専門家や朝鮮語学者[57]ではなかったという事実をよく反映している。

以上で見たように，両書は旧朝鮮語学に基づく学習書という性格を持ち，『朝鮮語独学の分析』ではその例文がほぼ丸写しで流用されていることがわかる。Podstavin と Iashchinski が自らの教科書編纂に当たって当時の学習書からこれらの底本を選択したということにはなんらかの理由があるはずである。その選び取りによって，旧朝鮮語学の学習書の影響がロシアの朝鮮語教育に影響を与えたと見なせよう。

7．当時の教科書の作成法

先に見たように，『朝鮮語独学の分析』の会話は，その比率から見て，『実地応用朝鮮語独学書』をもとに，『日韓通話』から例文を補って編纂されたものである。これらは現代の倫理では盗用・剽窃にあたるだろう。「このような行為［盗用・剽窃：植田註］を現代の視点から批判することはたやすいが，現代と同じ意識を当時の人間は持っていはしなかったという点には注意しておきたい。」という植田の指摘[58]は『朝鮮語独学の分析』にもあてはまるだろう。

それでは，なぜこのような方法で教科書が編纂されたのであろうか。キム・キングは Podstavin が「日本語で著述された韓国語関連書籍に多くの興味を感じ，そのような資料を収集して韓国語教育に活用した」と指摘している[59]。

ところで，Podstavin と同時代人で同じく東洋学院で教鞭を執った日本語研究者の Spal’vin も Podstavin 同様，新設機関での教育のため多くの教科書類を編纂している。彼の日本語教科書編纂に関しては，ディボフスキー・左近が次のような過程を経ていることを明らかにしている。

「スパルヴィンは、E. Satow、W. G. Aston、B. H. Chamberlain、R. Lunge、その他のヨーロッパの日本研究家が作成した教材や文法書を参考にしつつ、日本人講師の手を借りながら新しい日本語教材の作成に着手した。」[60]

「新任地へ転任しても、スパルヴィンの心を何よりも領していたのは学究としての日本語の研究であり、三分冊の『日本語口語教本』の完成に向けエネルギーを注いだ。もともとロンドンで一九二〇年に出た、マックガヴァーンの『口語日本語』を下敷きにしていたとはいえ、第三分冊などは日本語における文字の歴史を説いたもので、まったく独自な内容になっている。」[61]

56）矢野（2016: 336）

57）例えば，成**玧炯**（2007: 141）では，国分象太郎・国夫兄弟を「朝鮮語学者」と称している。

58）植田（2021: 14）

59）キム・キング（2011: 52–53）

60）ディボフスキー（2009: 32）

61）左近（1998: 232）

さらに，Podstavin や Spal'vin の時代から200年近く遡った18世紀ロシアでの日本語教科書類の編纂について，1736年に開設され，1729年にカムチャッカに漂流したソーザとゴンザが日本語を教えることになったアカデミー付属日本語学校（ペテルブルグ）で1736年から1739年に編纂された6冊の辞書・文法書・会話集のうち，3冊には種本があったとされている[62)]。

このような編纂法は当時のロシアで広く行われていたものと見られる。現代でも日本で刊行された朝鮮語テキストが台湾で翻訳・出版されるというような現象が見られるように，当該言語の本格的な教育・研究の初期にある場合に見られる現象であるといえよう。

また，旧朝鮮語学の学習書との関連が明らかな Podstavin の著書として，"Подстрочный словарь къ разговорамъ на корейскомъ языкѣ по тексту японского учебника 日韓通話" がある[63)]。これもまた『朝鮮語独学の分析』の底本のひとつである，『日韓通話』を別の形で利用した教科書である。当時の東洋学院の日本語教科書を見れば，『実用会話』[64)]のように，ひとつの教材が本文之部・字典・露訳辞典之部・辞典索引から成るものがある。ここに挙げられたものもこのような構成のセットものの一部と見ることもできよう。この他，日本語による旧朝鮮語学に基づく教科書を利用したのと同様に，Ridel の "Grammaire Coréenne" を訳した『韓露文典』のような西洋語からの翻訳もある[65)]。

8．おわりに

本論文では，近代日本の旧朝鮮語学の特徴について見た後，『朝鮮語独学の分析』の底本が少なくとも『実地応用朝鮮語独学書』・『日韓通話』の2冊であることを明らかにした。また，形式の面で旧朝鮮語学の学習書を『朝鮮語独学の分析』が踏襲している点も見た。

Spal'vin の教科書類については，「スパルヴィンによる日本語教材は内容の深さとシステマチックな編成を特長としていたため、国立極東大学、サンクトペテルブルグ大学、モスクワ大学などの全ソ連、全ロシアの日本語教育機関に、20世紀をとおして多大な影響を与えた。」[66)]とされている。

62）生田（1999a: 76）

63）BnF 蔵書（4-IMP OR-601）の写真（同館より2016年6月23日受領）により確認した。菅野（1971: 308）では『日本の入門書「日韓通話」の韓国会話部分の辞典　付：韓国口頭語の重要な文法形態の説明』としている。また，高松茂（1980: 196）では，1909年現在石版印刷中として，『日本の入門書『日韓通話』の韓国語会話辞典　韓国の口頭語の重要な文法形態説明添付　1908-1909学年度』として同書を挙げている。この他，高松茂（1980: 196）に，『日本の教本『Hanotesen』を改訂した韓国語実用会話辞典（1909年度現在出版中）』という書名が挙げられている。この教科書の原物は見出せていないが，『Hanotesen』とは『独学韓語大成』（伊藤伊吉，丸善，1905年初版）と見てよい。

64）東洋文庫蔵（XVII/12-E/49）の原物

65）伊藤英人「東京外国語大学図書館所蔵書解題」AA研共同研究プロジェクト「朝鮮語歴史言語学のための共有研究資源構築」ウェブサイト http://www.krling.com/KRMODERN/downloadable/（2012年9月11日最終接続。2021年9月14日現在リンク切れ）。東京外大蔵書の原物で確認したところ，伊藤では請求記号を K/II/108 としているが，これは表紙1のもので，（内）表紙には XI/B/108 とある。旧朝鮮語学と欧米人の朝鮮語学習書については，矢野（2016）が論じている。

66）ディボフスキー（2009: 32）

同時代に同じ学校で用いられたPodstavinの教科書類についても，同様の現象が見られたとすれば，本論文で発見した底本は日本語話者の「朝鮮語学習者に洵に重宝がられた」[67]のみならず，旧朝鮮語学の成果がウラジオストックで用いられていた上に，遠くペテルブルグの朝鮮語教育にも影響を及ぼしていた可能性をも物語っている。

最後に例文130–270の発見の他の今後の課題を述べる。第1に，本論文では，1次資料・2次資料とも引用文献以外のものを含め，ロシア語資料で十全に利用できなかった部分がある。第2に，東洋学院の日本語・中国語・朝鮮語・モンゴル語・満洲語のカリキュラムの中での朝鮮語教育の位置づけが必要である。第3に，本論文で取り上げた以外の教科書も含め，朝鮮語教育のカリキュラムの中での検討が必要である。第4に，Iashchinskiのより詳細で正確な人物史の解明が必要である。第5に，潘炳律（2004）で示されたようなPodstavinが担った多様な研究・教育・教育行政での職務，ロシア極東の朝鮮人社会との関わりをはじめとする様々な社会活動ついて，朝鮮語教育史の視点から検討することが必要となる。これらを総合して初めて，Podstavinと朝鮮語との全体像が浮かび上がるであろう。

引用文献[68]

生田美智子（1999a）「東洋学院物語」『セーヴェル』9，ハルビン・ウラジオストクを語る会
生田美智子（1999b）「東洋学院物語②」『セーヴェル』10，ハルビン・ウラジオストクを語る会
石川遼子（2005）「国分象太郎」舘野哲『36人の日本人　韓国・朝鮮へのまなざし』明石書店
植田晃次（2010）「朝鮮語研究会（李完応会長・伊藤韓堂主幹）の活動と民間団体としての性格」『言語文化研究』36，大阪大学大学院言語文化研究科
植田晃次（2012a）「明治期朝鮮語学習書・伊藤伊吉『独学韓語大成 全』の書誌学的研究」李東哲・権宇 主編『日本語言文化研究　第二輯　上』延辺大学出版社
植田晃次（2012b）「旧朝鮮語学の国外への影響―ロシア・東洋学院G.V. Podstavin教授をめぐって」第63回朝鮮学会大会（2012年10月7日，於福岡大学）口頭発表資料
植田晃次（2016）「中国刊行朝鮮語文法書書目」『大阪大学言語文化学』25，大阪大学言語文化学会
植田晃次（2021）「銀行員・弓場重栄と朝鮮語」『言語文化研究』47，大阪大学大学院言語文化研究科
大曲美太郎（1936）「釜山港日本居留地に於ける朝鮮語教育」『青丘学叢』24，大阪屋号書店
岡良助（1915）『京城繁昌記』博文社

67）大曲（1936: 161）では，『実地応用朝鮮語独学書』・『日韓通話』・『実用韓語学』（島井浩，誠之堂書店，1902年初版発行）の三書が重宝がられたと述べている。

68）註1で示した通り，朝鮮語文献には「＊」を文献末に付し，日本語に訳して示した。デジタル化資料には「D」を同じく付した。朝鮮名は朝鮮語の日本語表記の原則が存在しない現状に鑑み，日本語読みにより配列した

菅野裕臣（1971）「韓国語関係露西亜語文献（1854–1969）」『亜細亜研究』44，高麗大学校出版部＊

記念誌編集委員会（1983）『25年の歩み　上智大学外国語学部ロシア語学科 1958–1983』上智大学外国語学部

キム＝ドンオン・キング，ロス（2002）「開化期ロシア関連ハングル資料について」『ハングル』255，ハングル学会＊

キム＝ドンオン・キング，ロス（2011）「20世紀初ロシア東方学院の韓国語学習書「朝鮮語独学」について」『韓国語学』50，韓国語学会＊

金洵（2019）「ドミトリエフスキーによる「『象胥紀聞』小田幾五郎」翻訳本、その影響」『アジア文化研究』45，国際基督教大学アジア文化研究所

栗林貞一（1920）『浦潮見物』誠文堂書店・浦潮日報社

小泉義勝（1996）「ウラジオストク東洋学院（極東大学の前身）の基礎をつくった人々」『セーヴェル』2，小泉義勝

高松茂（1980）「帝政ロシアの韓国語および韓国研究」『ハングル』169，ハングル学会＊D

高麗大学校グローバル日本研究院在朝日本人情報事典編纂委員会（2018）『開化期・日帝強占期（1876～1945）在朝日本人情報事典』宝庫社＊[69)]

コジェミャコ，ヴィクトル（2006）「ロシアでの韓国語教育の歴史と未来」『亜太研究』13 (1)，慶熙大学校国際地域研究院＊

国会図書館司書局参考書誌課（1967）『西洋本韓国文献目録　1800–1963〈露西亜本包含〉』大韓民国国立国会図書館＊

コンツェーヴィッチ，L.R.／菅野裕臣 訳注（1971）「ソ連の韓国語学」『亜細亜研究』42，高麗大学校出版部＊

コンツェーヴィッチ，レフ（1995）「ロシアでの正統的な韓国学の発展史，現況と問題点」『二重言語学会誌』11，韓国文化社＊

権藤四郎助（1926; 1927[4]）『李王宮秘史』朝鮮新聞社（伊藤隆・滝沢誠　監修『明治人による近代朝鮮論 影印叢書 第16巻 李王朝』ぺりかん社）

齊藤明美（2005）「『日韓通話』と『交隣須知』の対訳日本語について」『日本学報』63，韓国日本学会

齊藤明美（2013）「『ポケット朝鮮語独学』と『実地応用朝鮮語独学書』について」『日本語文学』59，韓国日本語文学会

齊藤明美（2015）「弓場重栄の三つの学習書にみられる日本語について」『日本語学研究』44，韓国日本語学会

69)「強占」は日本語として馴染みない語だが，便宜上，漢字の置き換えで訳に代えた。

佐川裕美（2007）「日露戦争時の東洋学院」『セーヴェル』24，ハルビン・ウラジオストクを語る会

桜井義之（1979）『朝鮮研究文献誌―明治・大正編―』龍溪書舎

左近毅（1998）「訳者解説―スパルヴィンと日本研究」奥村剋三・左近毅『ロシア文化と近代日本』世界思想社

渋沢青淵記念財団竜門社（1967）『渋沢栄一伝記資料』別巻第四　書簡（二），渋沢青淵記念財団竜門社

上智大学外国語学部ロシア語学科（2004）『学科便覧［Web Version］2004』上智大学外国語学部ロシア語学科［Web 版］

成**玧姸**（2007）「近代日本語資料としての『日韓通話』」『日本語学論集』3，東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室

ソ＝ギョンスク（2018）「近代啓蒙期韓国語学習書『日韓通話』についての一考察」『国際語文』76，国際語文学会＊

染谷茂（1982）「ポッターヴィナ先生のこと」宇多文雄（1982）『上智大学外国語学部ロシア語学科25年の歩み』上智大学外国語学部ロシア語学科

ソン＝ミヨン（2018a）「開化期日本刊行韓国語学習書『日韓通話』の表記法考察」『語文研究』97，語文研究学会＊

ソン＝ミヨン（2018b）「開化期日本刊行韓国語学習書の創始者」『韓国史市民講座』34，一潮閣＊

高野明（1954a）「東洋学院（浦塩斯徳）に於ける日本研究について」『日本歴史』77，吉川弘文館

高野明（1954b）「東洋学院刊日本関係文献目録」『日本歴史』79，吉川弘文館

朝鮮公論社 編纂（1917）『在朝鮮内地紳士人名鑑』朝鮮公論社

陳南澤（2016）「1896年刊『実地応用朝鮮語独学書』の韓国語について」『岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要』1，岡山大学全学教育・学生支援機構

ディボフスキー，A.(2009)「極東ロシアにおける日本研究と日本語教育の行方（完全版）」ディボフスキー『ロシアの極東における日本学の行方 論文集・文献目録』ドラゴン印刷

日本ロシア文学会（2000）『日本人とロシア語』ナウカ株式会社

哈爾浜学院史編集局（1976）『松花の流れ 哈爾浜学院史』国立大学哈爾浜学院同窓会事務局

潘炳律（2004）「ポトゥスタービン[70]」『韓国史市民講座』34，一潮閣＊

桧山真一（1993）「東洋学院（ヴラヂヴォストーク）最初の日本人教師」『ロシア語ロシア文学研究』25，日本ロシア文学会

70）原文では포트스타빈（[potʰɯsɯtʰabin]）と朝鮮文字で表記。

芳地隆之（1999）『ハルビン学院と満洲国』新潮社

芳地隆之（2010）『満洲の情報基地ハルビン学院』新潮社

朴会映（2010）「1894年の韓国語学習書について」『千里山文学論集』83，関西大学大学院文学研究科

モロジャコフ，ワシーリー（2011）「ロシアの「拓殖大学」―ウラジオストックの東洋学院，その経験と遺産」『新日本学』22，拓殖大学日本文化研究所

矢野謙一（2012）「日本における旧朝鮮語学」李東哲・権宇 主編『日本語言文化研究　第二輯　上』延辺大学出版社

矢野謙一（2016）「旧朝鮮語学と欧米人の朝鮮語学習書」李東哲・権宇・安勇花 主編『日本語言文化研究　第四輯　上』延辺大学出版社

李康民（2003）「1893年刊『日韓通話』の日本語」『日本語文学』17，韓国日本語文学会＊

李康民（2008）「1896年刊『実地応用朝鮮語独学書』について」『日本語文学』39，韓国日本語文学会＊

李康民（2015）「『日韓通話』と明治期韓国語学習書」京都大学文学部国語学国文学研究室『国語国文』84（5），臨川書店

Григорцевич, С. С. 1957 Из истории отечественного востоковедения. Советское Востоковедение Т. 4., М., Изд-во Академия наук СССР

Концевич, Л. Р. 1970 Г. В. ПОДСТАВИН（К СТЛЕТИЮ СО ДНИЯ РОЖДЕНИЯ）. Народы Азии и Африки Т. 1., М., Изд-во Академия наук СССР

Уэда, Кодзи（Перевод с японского М. Щепетуниной） 2014 «Собраніе образцовъ современнаго корейскаго оффиціальнаго стиля» под редакцией Г. В. Подставина: библиография и цели сборника. Пути развития востоковедения на Дальнем Востоке России: сборник статей и библиография, Владивосток., Изд-во Дальневосточного университета

Khisamutdinov, Amir（不記載）「Grigorii Vladimirovich Podstavin」（University of Hawaii at MĀNOA Library ウェブサイト，2022年2月7日最終接続）

https://manoa.hawaii.edu/library/research/collections/russia/russian-northeast-asia-collection/russian-korean-materials/

付記：本論文は第63回朝鮮学会大会（2012年10月7日）での同題の研究発表の内容に加筆・修正したものであり，JSPS 科研費 18K00782による成果の一部である。また，それ以前の科研費（17320085・20320081・23520671・26370726）で得た知見も含んでいる。

資料閲覧で関係諸機関のご配慮をいただいた。また，一連の科研費による研究の共同研究者・矢野謙一教授（熊本学園大学）から多くの助言を，査読者お二方から有益なコメントを賜り，それを反映させた部分がある。あわせて感謝申し上げます。